

# 埼玉県立大宮高等学校同窓会会誌

# やまぼうし



第6号

2007. 4.

編集発行所

埼玉県立大宮高等学校同窓会

大高やまぼうし会

《事務局》

〒330-0834

埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323

TEL

048-641-0038

フリーダイヤル

0120-10-9899 (内線06)

## 平成19年度 大宮高校全体総会 & 懇親のつどい

日時 2007年5月19日(土) 13時30分より

会費 6,000円

会場 東天紅 JACK大宮

内容 定期総会(議事) 13時30分～  
懇親の宴 14時00分～16時00分

申込み ご出席の方は同封の返信はがきにて5月7日までにお申込みください。同封の郵便振替票をお願いします



\* 会費入金確認後、正式申し込みとなります。振込手数料は各自ご負担をお願いします

### ～ 昨年の懇親会 ～



大宮高校同窓会HPアドレス  
同窓会事務局メールアドレス

<http://www.yamaboushi-omiya.com>  
[dousoukai@yamaboushi-omiya.com](mailto:dousoukai@yamaboushi-omiya.com)



# ドイツ・コトブス姉妹校との交流10年目の年 —長期・短期の同時期受入で、校内も国際色豊かに—

大宮高校は創立70周年（平成8年）を記念する事業としてドイツ・コトブス市の姉妹校と提携し、生徒たちの国際的な視野を広げる活動を行ってきました。隔年でお互いの学校を訪問し、交流を深めてきたこの事業も、毎年同窓会の御支援もいただきながら今年で11年目となりました。

06年夏には、長期留学生(8/17~2/1)のAnne Marie StubingさんとAnne Witzelさんを第1学年の生徒として、5ヵ月半の間受け入れました。受入家庭生徒(のべ12家庭)やクラスや部活動の仲間とともに有意義な学校生活を過ごしました。また昨年夏は、ベグナー校長先生とピーターズ元校長先生率いる短期受入ドイツ生徒14名(8/17~9/2)も迎えました。いずれの受入家庭(のべ14家庭)も彼らを暖かく迎え入れ、受入家庭生徒たちが彼らのパートナーとして、密度の濃い2週間の共有体験をし、双方に異文化理解と互いの信頼が育まれました。



☆受入家庭生徒及び保護者の感想  
『この仲間は一生だよ』と誰かが言った。ドイツの生徒たちと日本の生徒たちと、本当に一生の友ができた。この派遣・受け入れプログラムを通して私は本当に多くのものを得た。  
昨年、ドイツに行った感想は『楽しかった』だったが、今年は大変だったけど楽しかった。COURTIEも、もしかしたら同じ感想だったかもしれない。お互いに母国語でない言語を使い、文化の違いを教え合い、そして学び合った。

た。派遣・受け入れともに経験できたこの2つの夏は私にとって、生涯忘れることのできない思い出になった。この経験をただの思い出にとどめず、私自身の将来の夢にまで発展させていきたい。  
(2年女子)

今回の経験を通してした一番大きな発見は、育った環境が違っても、話す言葉が違っても、自分の殻を破って一歩外に踏み出せば、すべての人と分かり合える!!ということでした。どんなに遠い国にいても、同じ星の人間、分かり合えないことなんかありません。私とJulieがこの2年間で経験したように、お互いを思う心と伝えたいと思う気持ち、そして何よりも笑顔が全ての人間を繋ぐ糸、だと思います。  
(2年女子)

いつも家では頼りのない娘が彼女と私たちの間に立ち、コミュニケーションの掛け橋となり、身振り手振りを交え英語で会話をしている姿に頼もしさを覚えました。彼女と過ごした2週間は、私たちに多岐にわたる有意義な時間でありました。私たちの日本の文化を紹介することによって、日本文化の素晴らしさを再認識し、又、ドイツ文化を彼女を通して垣間見る



ことによつて国際感覚を養う良い機会であったと思います。  
(受入家庭)

### 八十周年式典に出席して 海治 厚子（二十七期卒）

八十周年記念誌に「思い出の記」が載ったことで記念式典にお招きいただき、思いがけず豊かな時間が過ぎた。会場と時間しからず到着した私はそこで初めて、現役の大宮生が全員参加ということを知った。現在、中学校で三年生を担任しているの、母校の後輩ということよりたたくさんの高校生の様子が見られるのは楽しみだと思つた。「今どきの高校生だなあ」と少し短めのスカート、漫画や携帯を手に穏やかに座席でくつろぐ姿を眺めながら、席に案内していただいた。さすがにけじめがあり、式典が始まるとざわめきはびたりと止んで自然に落ち着いた雰囲気になった。式典という形式的になりがちだが、来賓の方々のお話から、今の大宮高校の勢いが感じられた。おそらくそれは多くの方々の高校への熱意や愛情が支えているのだろう。人気が高いのも当然だと思つた。

さて、式典の後は、TVでも活躍中の草野仁氏の講演。演題は「いつもチャレンジ精神で」。百分間どんな話をするのだろうかかと興味津々だった。何ヶ月か前に「波瀾万丈」というTV番組で彼の半生が紹介され、とても多才な人だと知っていたし、聞く立場は何となく気楽だ。会場には全校生徒、教職員保護者役員、来賓とびっしりの聴衆がいたがにこやかに登場すると最初の十分位で完全に皆の心をつかみ、メロも見ずに百分間の講演を飽きさせずに終えた。草野氏の話は、彼のNHK入社当時のエピソードから始まったが、一番印象に残ったのは今「不思議発見」という番組で一緒に黒柳徹子さんについて語った部分だ。講演を聞いた人の心に、「いつでもチャレンジ精神で」という思いが残つただろう。私は、人間には自分でも気づいていない可能性があるから与えられたチャンスを活かしたり、いくつになっても向学心やチャレンジ精神を持ち続けたいと思つた。



### ギター部演奏会 守屋 吉康（十九期卒）

六月十七日 市民会館おみやで三十一回目の定期演奏会が行われた。私が定演に来たのはこれで三回目だ。演奏を聴きながら遙か昔を思い出した。ギター部の前身である同好会を作つたのは二年先輩であつた。当時エレキギター、フォークソングが流行ついていた頃でベンチャーズ、タイガース、PPM、ジョーン・バエズという名前をご記憶の方がいると思う。髪を振り乱したロックスタイルが目立ちすぎ、先生や父兄に与えるイメージはあまりいいものではなかつた。

私はクラシックギターに夢中になり、プロになりたかつたので、ロックバンドは好きになれなかつた。その頃のメンバーはせいぜい十二、三名で発表の場は文化祭だけであつたが楽しい瞬間であつた。観客の半分以上が父兄の方のように見えた。残りがOBと在校生でした。オーピングは「シェリーに口づけ」。これがギター部のテーマ曲だそう。五十名からの合奏はさすがに迫力があり、上手い。特に一年生は入学してまだ三ヶ月ぐらいのキャリアのはずなのに。今年にはTシャツの色をうまく使い分けたり、ショートコントを挟むなど演出もずいぶん凝つていた。なかでも個別特訓風景のコントは大爆笑だった。また曲ごとに人員やパートの構成を変えするなど全て自分たちで作成してあげていた。その演奏は私たちの頃より格段に進歩していて全国レベルの力があつた。

三部構成で第一部はボピュラー、第二部はまぜまぜ、第三部は私の好きなクラシックだった。感心させられるのは譜面台がまったく登場しないことだ。合奏を全て暗譜しているのには恐れ入る。合奏するには他のパートの譜面も頭に入っていないければならない。今の大宮生の頭でできる私とは違うらしい。

三部の指揮者は二十四期の高橋氏である。彼は現在、ギター部の指揮・編曲にあたつてくれている。ギター部のレベルの高さは彼のおかげと聞いていいと思う。楽しく素晴らしい演奏会でした。

なつかしき日々  
伊藤 民子（創立十二期卒）

「すごい素敵な学校だよ！男子校舎と女子校舎の間の中庭は、花がきれいに咲いていて、階段教室だともあるし、グラウンドも広くて、森も見えるし、やまぼうしの木が、並木の様に並んでいるの！テニスコートで、男子と女子がテニスしていった。」

早々と学校を見学してきた、やすよちゃんの言葉は強烈であつた。

浦和に住んでいた私は、近くの学校を薦める父や母の希望をあっさり覆した。第一、電車通学というのもしてみたかつたのだ。

「どうしても行きたい！」

反対する父を、説得してくださる為に、中学の担任の先生までが夜、自転車で我家を訪れてきて下さった程であつた。結局、私の希望は通り、確かとても寒い日に行われた試験も無事通り、晴れて昭和三十四年四月、やまぼうしのブローチをしつかりとつけて、入学をしたのだつた。

早速、入部した文学部の部室は、当時新聞部と仕切り一つの同室だつたと思う。

校門を入ると、事務室などと一緒に一列に並んでいて、慣れ

てくると、朝教室に行く前に必ず寄っていた様な憶えがある。

その頃の文学部は、先輩・同輩共に、優秀な方達ばかりで、その水準の高さに眼を瞠ったものだった。

一年に一回、文化祭に合わせて発行していた「高翔」の他に、「未知数」という不定期の機関誌を、三ヶ月に一度位発行する様になったのもその頃のことだったと思う。「高翔」に載せて頂く広告取りに大宮の街を歩いた夏休みもなつかしい。

野球部が甲子園に行ったのも、私達が一年、二年との二回だった。応援部というものがなかったから、生徒会の会長（確か白根さんだったと思う）が、団長となり、放課後応援の練習をしたことを思い出す。予選の試合があるたびに、ごさをかかえてその頃の大宮球場までの参道を、歩いていくのも楽しかったものだった。

思い出すことは、溢れる様にありすぎて、あまりの多さにとでも書ききれないので。先生方につけたあだ名の数々（失礼しました）、教室でやったたぐさんのいたずら。朝の混んだバス。歩いて帰った駅までの道すがらにあった教会の赤い屋根。駅の改札を通ると、たまに見た蒸気機関車。今は、海と山のある湘南の

街に住んで約三十年。時として現在の、大宮の街を歩くとき。駅ビルの混雑の中に居るとき。ふとあの昔のどかだった一瞬、一瞬をなつかしく思い出すことがある。あれから四十年以上経ってしまっただ。

八期同期の会で楽しむ  
山本 嘉男（八期卒）

去年二月、七十三名の仲間との同期会のあと同好会を結成しました。時間の取れる人は極力会って人生を共に楽しむという事です。①食べる会と②歩こう会は春に大宮公園の桜を見る会を計画、二十八名が参加し、ラフレで食事をして大宮高校経由で大宮公園に行き、花とダンゴの両方を楽しみました。大宮高校に寄った時、大谷校長先生が出てきて校内を説明してくれたこと、皆さん感激していました。③ゴルフの会は以前から仲間で行っていたこともあり、五月と十月の二回、栃木県那須野ヶ原カントリークラブでコンペを行いました。私はゴルフより仲間と泊りがけで一緒に過ごせたことがよかったですように思います。④旅行の会は十一月に寅さんの映画でお馴染みの葛飾・柴又に行ってきました。男子五名、女子十五名が参加、森ハツ江さんから楽しい俳句をいただきましたので紹介します。

○色変えぬ松の見事や帝釈天  
○今日のみは親子着飾り七五三  
○空澄みて再会染し柴又に  
平成十九年も色々の会を通じて同期生との再会を楽しもうと思います。



「大高五七会」の活動について  
秋元 宏文（七期卒）

九クラス（うち、男子三クラス）四百二十八名、これが昭和三十二年（一九五七年）三月に卒業した、第七回の卒業生です。

この卒業生による初めての「同期会」が開催されたのは、昭和五十三年（一九七八年）で、会場は大宮公園の「国体記念館」でした。初の同期会の開催を呼びかけるにつけても、卒業して二十年余を経過しているため、

同窓生紹介

洋画家

國藤 修誉氏

県立移管直前の学校  
埼玉県大宮第一高等学校卒

高校時代バレーボール部に所属、日本大学に入学後、もっぱらバレーボールを追いかけ、二年生からレギュラーになり、関東大学リーグ上位校として頑張った。四年生になると大宮南中や県立になった大宮高校に時々コーチにきていた。兄と一緒に川口市内で照明機器会社を経営する。街路灯設置などの仕事もあり、仕事は順調に推移する。  
絵画は五十歳すぎに、自分に才能があるかどうかかわからないではじめる。三年目、四年目に県展に入選、五年目に読売新聞全国公募で佳作の賞をいただく。  
いったん活動を停止するが、十年後の六十七歳で再開。青い花びんの中のユリを描いた「白き芳香」では、ユリの魅力を余すところなく追求、ユリを描かせたら國藤に優るものなし、の定評をいただく。「うぶすま物語」では世界的安寧をアピール、その独創的なタッチが注目を集める。



(山本嘉男)

平成十八年タイのシエラロ  
ン国立芸術大学名誉教授とな  
った他、英国文化至宝芸術大  
賞、北京国際芸術博覧会銅賞  
など海外でも多数の賞を受賞  
國藤氏は人生訓として山登  
りにたとえれば、六合目に  
いて頂上を目指している気持  
ちだと言う。  
ユリなどの静物画の他、一  
枚の絵の中に春夏秋冬を描い  
た「私の四季」、音楽を戯れ  
ているアリや子供たちも描い  
ていて獨創性は素晴らしい。  
七十五歳になった現在、ま  
ずまず創作活動に打ち込んで  
いる。

### ウォーキング同好会 「桜の見沼用水」へ

四月一日、十時武蔵野線、「東  
浦和」に集合したとき、話題は  
大宮高校のことでした。読売新  
聞の埼玉版で今年の入学試験で  
合格者の平均点が、大宮高校が  
浦和高校を抜いて県下で一番  
になった。浦和が首位から転落し  
たのは史上初めてではないか、  
との記事。すごいね、生徒さん  
がんばってね。  
昨日までの荒れた天候と違い、  
ぽかぽかとした陽気で絶好のお  
花見日和、ウキウキ気分です三十  
一名が東浦和駅を徒歩で出発。  
まず歴史上名高い運河の通船堀  
跡に向かい、芝川の川べりで小



さな集会をする。コースの説明  
のあと、自己紹介をする。皆さ  
ん、おたがいを拍手で歓迎。そ  
こから見沼代用水西線を満開の  
さくらを見ながら北に進む。  
歩き慣れていないせいにか、汗  
がジワリと出てくるが、見事な  
桜が私たちの心を和ませてくれ  
る。桜並木がエンエンと無限に  
続いているように感じる。  
途中「ホタルの里」の看板が  
あり、かつては見沼一帯にホタ  
ルがいたことを示していた。東  
浦和から五キロぐらい歩いたた  
ろうか、見沼水川公園に到着。  
待望のお昼だ。小さな一口ピ  
ールを配る。みんなでカンパイし  
て、おにぎりをほおぼる。おな  
かが空いているせいにか、とても  
おいしい。中田世津子さんがも  
つてきてくれた軽い塩味のきゅ  
うりが体にしてみたくさんいた

だく、最高だ。  
横になって動かない人もいて  
かなり疲れているようだ。  
一時過ぎ全員で記念写真をと  
って再度出発。桜を鑑賞しなが  
ら数キロ歩いた。ゆっくり歩く  
ことが長く歩けるこつなのかな  
と思う。  
二時少し前、目的地の市立病  
院に到着する。お疲れさま。自  
宅を出てから一万三千五百歩で  
きたいな！  
(八期 山本嘉男)

大宮農商ご出身の杉山忠五  
さんに「見沼用水を歩こう」のお  
誘いをしたところ見沼の蛍に関  
する投稿をいただきましたので  
紹介します。

### 蛍

大宮農商 杉山 忠五

昭和の初めの頃、見沼田圃は  
見渡す限りの広々とした景色だ  
った。寿能の森のあたりからず  
つと浦和の木崎まで見渡せるほ  
どの青田の続きで、夏になると  
源氏蛍が飛び交い、青草の匂い  
が鼻をついた。

その頃は今と違って街灯もな  
く、丘の上の農家の灯も漏れる  
ことなく、月や星の明かりを頼

りに道を確かめるほど暗かった。  
その暗やみの中で蛍が群舞し、  
道端の草にも光る露のごとく、  
葉の先で光っていた。  
この源氏蛍を愛でようと風流  
人たち文人墨客が料亭の東山や  
見沼・岩槻新道の山家などに席  
を設け、杯を重ねて遊んでいた  
ようであった。

その源氏蛍を大正の頃、宮中  
に献上した記録がある。その頃  
から氷川神社の参道には何軒か  
の茶店ができ、夏になるとカキ  
氷を売る一方で蛍を籠に入れて  
売っていた。店の中央に大人の  
背丈程もある蚊帳を張った四角  
な小屋の中に笹やヒノキの枝を  
たてかけ、霧を吹きかけてその  
中に蛍を放っていた。夕方にな  
るとあたりの暗さに比例して蚊  
帳の中がだんだん明るくなって  
くる風景は美しかった。

見沼に蛍を見に行く人たちが参  
詣に来た人たちが蛍を買い求め  
ていた。丸い小型の籠が三十銭  
屋形船がたの上等な籠が五十銭  
だっただろうか、今では定か  
でない。

蛍は見沼ばかりか神社の池の近  
くにも出てきて、時折はぐれ  
が我が家の庭にも迷い込んで光  
を放っていた。

あの蛍たちはどこに行ってしまう  
ったのか？ 残念でならない！

# 賛助金と購読料について、報告・御礼・お願い

皆様の賛助金と購読料のお陰で特に経費のかかる会報も発行することができました。深く御礼申し上げます。引き続きご協力を賜りたくよろしく申し上げます

①2006年春の賛助金の合計	125口 (1口 5,000円)	625,000円
②2006年会報購読料払込者	227名 (2,000円)	454,000円
③創立八十周年記念賛助金	367口 (1口 5,000円)	1,835,000円
今年度(2006年度)の賛助金・購読料の総計		2,914,000円

## 賛助金をお寄せくださった方々 (2007年1月現在)

卒業回期	氏名	卒業回期	氏名	卒業回期	氏名	卒業回期	氏名	卒業回期	氏名
大宮農商	長島 好一	県立4回	中村 春子	県立8回	西村美知子	県立15回	石隋千恵子	県立19回	渡邊 泉
大宮農商	齊藤 武男	県立5回	内田 長良	県立8回	石黒 照子	県立15回	行正 百子	県立19回	稲川 豊
大宮農商	吉田 賢治	県立5回	山崎 豊彦	県立8回	山崎 千代	県立15回	藤掛 孝子	県立19回	永井 敏男
大宮農商	名古屋光男	県立5回	横溝 善治	県立8回	迎 正子	県立16回	飯島 清	県立19回	大内 賢二
大宮農商	熊井 芳男	県立5回	本持 正二	県立8回	黒須小夜子	県立16回	小林 幸夫	県立20回	三瓶 善弘
片倉学園	齊藤 一男	県立5回	中村 哲	県立9回	藤井 京子	県立16回	小野寺 孝	県立20回	金子 浩二
片倉学園	新見 芳雄	県立5回	田中 久子	県立9回	高野 正子	県立16回	遠藤 幾代	県立20回	畑中 幸夫
片倉学園	宮崎 守安	県立5回	磯田 守代	県立9回	奥村 信道	県立16回	折原 典子	県立20回	井山 和夫
片倉学園	染谷 忠	県立5回	木戸 健嗣	県立9回	井原 正博	県立16回	佐藤 裕子	県立21回	小池 武利
片倉学園	関谷 雄三	県立5回	古谷 織江	県立9回	斎藤 善貞	県立16回	原澤由紀代	県立22回	六沢 俊正
片倉学園	大野 博史	県立5回	瀧田喜代子	県立9回	林 克巳	県立16回	島村 正美	県立22回	松本 輝夫
片倉学園	金井 清	県立5回	西村 季子	県立10回	高橋 和延	県立16回	山口江美子	県立22回	松井 茂樹
片倉学園	増田 清	県立5回	福田 昌子	県立10回	飛田多恵子	県立17回	石塚 幸治	県立22回	根岸 正高
片倉学園	森島 克己	県立5回	水野みち子	県立10回	井田 孝之	県立17回	大久保俊雄	県立22回	猪瀬 雄二
片倉学園	天海 清	県立5回	清水 浩二	県立10回	誠道 文子	県立17回	清水 邦夫	県立22回	石川 隆晴
片倉学園	渋谷 十	県立5回	小俣 昌子	県立10回	村井 幸子	県立17回	加藤 憲一	県立22回	笠原 清和
片倉学園	原谷 一利	県立5回	松村 宗一	県立11回	青木 重幸	県立17回	藤田 泰枝	県立22回	関口 英一
片倉学園	高橋 重春	県立5回	大野 善司	県立11回	石井 勝	県立17回	中村 敬	県立22回	荒井 英雄
片倉学園	小林 重明	県立5回	米山 玉江	県立11回	赤熊かつ子	県立18回	長澤 信一	県立23回	高橋よし子
片倉学園	小山 久	県立5回	蓮見 順子	県立11回	加藤 和子	県立18回	柴崎 良一	県立23回	望月 正雄
片倉学園	田島 信行	県立5回	大矢 桂子	県立11回	片桐ツタ子	県立18回	松澤 清	県立24回	新井 進
大宮一高	小出 洗義	県立5回	鈴木ケサ子	県立11回	栗原 美子	県立18回	並木信一郎	県立24回	内田 昇一
大宮一高	国藤 修登	県立5回	辻井美知子	県立11回	伊藤 浄	県立18回	森泉 秀雄	県立24回	清水 芳之
大宮一高	中嶋 昭二	県立5回	臼倉 輝子	県立11回	大岡 浩子	県立18回	佐藤 勇	県立27回	島村 昇
大宮一高	森田 昭吾	県立6回	天沼 義江	県立11回	藤ノ木千恵子	県立18回	水野 英夫	県立28回	清水安基子
大宮一高	市ノ川傳士	県立6回	長澤 巖	県立11回	石山 和子	県立18回	濱名 洋	県立28回	永峰 博之
大宮一高	安田 平典	県立6回	渋谷 光江	県立11回	守永 昭男	県立18回	新井 幸男	県立28回	島田 牧男
大宮一高	長谷川 正	県立7回	秋元 宏文	県立11回	五百川美奈子	県立18回	加藤千恵子	県立28回	梶間 真理
大宮一高	町田 博次	県立7回	大石 榮子	県立11回	嶋田 明子	県立18回	石井もと子	県立29回	志水 香苗
大宮一高	町田 賢一	県立7回	奥津 珠子	県立11回	田村 和男	県立18回	山中恵美子	県立31回	阿部 均
大宮高女	邨井 昭子	県立7回	大室 和子	県立11回	関根 忠男	県立18回	蟻川 元司	県立33回	菅井千恵子
大宮高女	張替瑠璃子	県立7回	宇賀神道子	県立12回	嶋崎 洋明	県立18回	長井 正実	県立33回	山田 祐司
大宮高女	佐々木八千代	県立7回	小島美智子	県立12回	中根 弘子	県立18回	宮田 敬子	県立34回	藤川 宝夫
大宮高女	駒崎 ひさ	県立8回	白子 春江	県立12回	井上 三芳	県立18回	加藤 幸子	県立34回	針谷 明房
大宮高女	三ツ木美貴子	県立8回	山本 嘉男	県立12回	荻野 勝弘	県立18回	中村 孝三	県立35回	飯塚 文俊
大宮高女	森口 秀子	県立8回	末吉 敏子	県立12回	森澤 綾子	県立18回	中村香美子	県立37回	松島 宣正
大宮高女	森田百合子	県立8回	尾俣 一男	県立12回	内田 澄江	県立18回	西埜 恵子	県立44回	伊沢 正篤
大宮高女	森田登代	県立8回	矢作理和子	県立12回	佐藤 洋子	県立18回	荒井 道子	県立50回	豊田 栄子
県立1回	長島 静江	県立8回	近藤 健三	県立12回	伊藤 民子	県立18回	沼尻 清	県立50回	東海林孝男
県立1回	関 和子	県立8回	藤田 正利	県立12回	三浦てい子	県立18回	茂木由起子	県立52回	田坂 麻美
県立1回	今西 弘子	県立8回	中曾根稜子	県立12回	福永 信彦	県立18回	植木 治子	県立52回	山岸 智久
県立1回	帯津 正光	県立8回	大木 敏子	県立12回	長谷川幸子	県立18回	小久保 豊	県立54回	松田 昂之
県立1回	岡田 晃	県立8回	久保由起子	県立12回	小山 孝	県立19回	山中 立善	県立56回	高柳 聡美
県立2回	大部 紀子	県立8回	五ノ井道子	県立12回	飯泉 ふき	県立19回	中津川俊明	匿名	
県立2回	出窪 昭一	県立8回	殿塚 艶子	県立12回	新井 和子	県立19回	山川美津子		
県立2回	尾崎 充弘	県立8回	町田 陽子	県立12回	阿部田鶴子				
県立2回	関根 文子	県立8回	森 ハツ江	県立12回	島村 英夫				
県立3回	駒崎 清人	県立8回	松本 良夫	県立14回	高篠 良久				
県立3回	市川 甫	県立8回	喜多 圭子	県立14回	草野 房子				
県立3回	渡辺 喬	県立8回	中村美奈子	県立14回	長谷川久子				
県立3回	平栗万里子	県立8回	井上比佐子	県立14回	和田マチ子				
県立3回	山田 康王	県立8回	三谷 万為	県立14回	船山 明代				
県立3回	佐々木実	県立8回	一瀬 高子	県立14回	太田 忠紘				
県立4回	栃原八重子	県立8回	加藤 順子	県立14回	平松 庚三				
県立4回	渡邊 一久	県立8回	中島 文子	県立14回	小山 徹				
県立4回	松本 一男	県立8回	佐渡 和夫	県立15回	吉川 久子				
県立4回	北見 康子	県立8回	鈴木 昭三	県立15回	山口 芳子				

**●賛助金についてのお礼とお願い●**

昨年度、第5号にて賛助金募集のお願いをさせていただいたところ、上記の会員の方から温かなお気持ちをお寄せいただき深く感謝申し上げます。

青春の一番多感な時を過ごしました母校は歴史と伝統ある進学校として県内でも有数の高校へと発展しております。

全体同窓会は、会員相互の交流をより活発にするための様々な企画に取り組んでおります。80周年を迎え、同窓会の運営と活動がより充実し、皆様方のお役に立つ同窓会として成り立っていきますよう本年度も賛助金募集にご協力いただきたく何卒よろしくお願ひ申し上げます。

～ 80年の軌跡 ～

# 母校創立80周年記念式典

平成18年11月18日(土) さいたま市文化センター



吹奏楽部 迫力の演奏

記念講演 草野仁氏

## 第6回やまぼうしコンペに参加して

2006年11月25日(土)

11月25日朝5時起き、友人3人と6時15分、与野駅で落ち合って栃木に向かう。眠いが友人とのゴルフに心が弾む。8時少し前、予定通り真名子カントリーに到着。天気ガボカボカとしていて暖かい。

8時20分、男性16名、女性4名の合計20名がさつきコースに集合、個人戦と卒業期対抗の団体戦を行うことになった。このゴルフ場の景観は美しい。池を取り入れたホールもよし。紅葉の山を見ながら、晩秋の芝生を歩くのは心地よかった。3時過ぎ、表彰を兼ねたパーティーがはじまった。みんな昔からの知り合いのようにすぐに親しくなれた。わが同期で、はじめて間もない女史は5回卒の山崎さんに色々教えていただき、楽しくプレーしてきたとのこと。山崎さんは人一倍世話好きのようだ。

団体戦は4チームが参加し、3名のグロスの合計が一番少なかった17期生が優勝した。わが8期生は4チーム中、4位に入賞した。次回は頑張ろう。スポーツはいいね！皆さんと一体になっているようで幸せな気分になった。20名はまた次回もコンペに参加しようと約束して散会した。

山本嘉男(8期生)

### ・個人戦 (シンペリア方式)

順位	氏名	回期	グロス	ハンデ	ネット	備考
1	五明顕二	15回	81	9.6	71.4	
2	小林一朗	7回	82	9.6	72.4	
3	石塚幸治	17回	79	6	73	ベストグロス

### ・団体戦 (回期別対抗戦とし、上位3名のグロス合計点で競う)

順位	回期	上位3人	合計点
1	17回	石塚、熱田、小島	267
2	19回	守屋、渡辺、井上	269
3	18回	中村、柴崎、松本	296



「やまぼうし」  
企画 埼玉県立大宮高等学校  
大高やまぼうし会  
十回生 村井紫扇  
発行 平成十九年四月一日  
印刷 株式会社イーピーエス

## 幹事さんをお願い

クラス会・同期会・部活OB会の開催状況をお寄せ下さい!!  
◎ホームページの【こんなことしますコーナー】はクラス会・同期会・部活OB会の開催をHPに掲載してお知らせできます。(HPに申し込み画面有り)  
◎クラス会・同期会・部活OB会の開催の様様(開催日時・場所・参加人数)を、写真を添えて事務局までお送りください。(メール可)

dousoukai@yamaboushi-omiya.com

〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323  
埼玉県立大宮高等学校同窓会事務局 宛